

『一億人の英文法』 PART 5, Chapter 16 Section 5 ~ 7 (p.565-589)

Section 5 現在完了形 (have + 過去分詞)

- (1) () you () () Geoff?
ジェフから連絡あった？
- (2) I () () fried ants.
私はフライしたアリを食べたことがある。
- (3) We () () partners () 3 years.
私たちは 3 年間パートナーです。
- (4) I () () my shoulder, so I can't play tennis.
肩を脱臼したから、テニスはできないよ。

現在完了形の焦点は「現在」にある。そこに「迫ってくる」、あるいは向こうから手元に「やってくる」といったダイナミックな動きをあらわす時制(p. 566 参照)。

■ (1) 間近に起こったできごとをあらわす

- 過去形(Did you hear from Geoff?)では「離れた」出来事をあらわす。
- 手元に「迫ってくる」感。ホヤホヤ感。recently がなくても「(最近)連絡あった？」のニュアンス。
【相性の良い表現】 just / already / yet

■ (2) 経験 (～したことがある)

- 過去形の単に「食べた」とはまるで違うニュアンス。
- 過去のできごとを現在のものとして取り込んでいる。
【相性の良い表現】 ever / never

● 「行ったことがある」の be 動詞

- (5) We () () to Machu Picchu.
私たちはマチュピチュに行ったことがある。
- (6) He () () to the bank.
彼は銀行に行った(だから今ここにはいないよ)。

- 現在完了になると突然 be 動詞に「行く」という強い意味が生まれるというわけではない。そこに「居たことがある」を通じて「行ったことがある」が間接的に出てくる。
- 「行ったことがある」の意味で gone は使用不可。go のイメージは「立ち去る」。現在完了は今に迫ってくる形なので「行ってしまった⇒今はいない」となる。

■ (3) 継続 (ずっと～している)

- 「3 年の間今に至るまで」の意味。過去形だとその関係が解消されているニュアンスが色濃く出る。
- “How have you been?”は“How are you?”の現在完了形バージョンで、継続の例。
【相性の良い表現】 for / since ※since と ago が一緒に使えない理由(p. 571)

■ (4) 結果（「だから今…だ」という含み） 使用例は p. 572 を参照

- 過去のできごとがもたらした現在の結果に意味の焦点。
- 脱臼した [過去] ⇒ 今はまだ治っていない、不調 [現在] ⇒ だからテニスができない

■ ネイティブの現在完了形(p. 573-574 参照)

Section 6 完了形バリエーション

- (1) The poor man () already () when the ambulance () there.
救急車が到着した時には、そのかわいそうな男性はすでに亡くなっていた。
- (2) I () () () my homework by 10.
10 時までには宿題を終わらせているだろうな。
- (3) I () () () harder.
もっと一生懸命勉強するべきだったな。
- (4) I () () () the kitchen since this morning. I'm exhausted.
今朝からずっと台所掃除し続け。本当に疲れたよ。

完了形と言っても、現在完了形、現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形、(未来完了形)、(未来完了進行形)といったものがあり、加えて助動詞とのコンビネーションも存在する。要するに自由に組み合わせる自分の言いたいことを言えば良いことらしい。

■ (1) 過去完了形

- ある過去の時点(下線部)が意識されている。「その時まで」に起こったできごとを描写するのが過去完了形。「救急車が到着した」その時点までにできごとが起こっていることが意識される。
- ある過去の時点がしっかりと意識され、それ以前を表わす—それが過去完了である。
- ただし、単に「ある過去時点の前に起きたできごと」を表わす形ではない。(p. 576-577 参照)

■ (2) (未来完了形)

- 予測の中のできごとであり、ある時点を思い浮かべ、それ以前には「～してしまっているだろう」を示す形。
- この形は「未来完了形」と呼ばれることがあるが、未来を表わすだけに限られた表現ではないので注意。次の文のように、今起こっていることを思い浮かべる場合にも使える。

They will have arrived in Los Angeles by now.

彼らは今頃はロサンゼルスに着いているだろうな。

■ (3) 助動詞+完了形

- should have は「するべきだった」という後悔を表わす典型的な表現。会話で頻繁に使われる。
- なお、may have は「したかもしれない」という以前起こった事についての想像を、must have は「したに違いない」という以前起こった事についての確信を表わす。

■ (4) 現在完了進行形

- 進行形は「躍動感」。「現在に迫ってくる」現在完了形と結びつくと、ある行為が過去から現在に向けてずっと続いていることを示す。すなわち**連続した動作の強調**。
- 「疲れた」「もうたくさん」といった**感情が乗りやすい表現**。日常会話レベルで頻出。

蛇足 完了進行形の受動態について

個人的にずっと完了進行形の受動態は可能かどうか、可能であれば形はどのようなのかなど気になっていたので調べてみました。ちなみに Forest などの参考書では扱われていない模様。

- コーパス的には全くないわけではないようである。“have been being 過去分詞”の形がごく稀ではあるが見られる。ソースとしては不安だが、知恵袋の住人もそう言っている。
- 受動態は「状態」の要素を帯びている場合が多く、状態動詞が基本的に進行形で用いられないことと同様に、使われないのではないかな。
- ただし、BBC の Q&A では以下のようなコメントが見られる。

BBC(<http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/grammar/learnit/learnitv65.shtml>)

和訳：「現在完了進行形を受動態にすることはできるが、その構文の分かりにくさと簡潔性の欠如のために避けた方が良い」

Section 7 未来

- (1) It () rain tomorrow.
明日は雨だよ。
- (2) () give you a hand with the dishes.
皿洗い手伝うよ！
- (3) () () () pour down any minutes.
今にもザーッとくるよ。
- (4) () you () () attend the party?
そのパーティーに参加するつもり？
- (5) () () lunch with Keiko on Thursday.
木曜日に恵子と昼食の予定です。
- (6) My birthday () next Tuesday.
私の誕生日は来週の火曜日です。
- (7) This time next week, () () () on the beach.
来週のこの時間、僕はビーチで日光浴しているところだよ。
- (8) () () finish your homework before watching TV.
テレビを見る前に宿題を終わらせるように。

英語には未来を表わす形に決まったものがない。様々な表現から生まれるニュアンスの違いを押さえる必要がある。

■ (1) will の描く未来「予測(～だろう)」

- 未来のできごとを鮮明に見通す意識。
- 「明日は雨だよ」、そうじゃなかったらびっくりだよ、といった強い確信が感じられる。

■ (2) will の描く未来「意志(～するよ)」

- その場で決めるのがポイント。山ほどある洗い物を見て「手伝うよ！」となる。
- 頭にスイッチが「カチッ！」と入って「～するよ」と決めるタイミング。

■ (3) be going to (+ 動詞の原形)の描く未来「目に見える原因(～しそう)」

- be going to では to 以下の状況にそのまま向かう「流れ」が意識される。
- そのままいけば「雨になる」という状況の流れが意識されている。

■ (4) be going to (+ 動詞の原形)の描く未来「意図(～するつもり)」

- 「流れの中にいる」意識。ある行動に向けて進んでいる最中ということ。

■ (5) 進行形が描く未来

- 未来のある時点を意識しながら「その時には～しているよ」から「予定」が生じる。

■ (6) 現在形のあらかず未来

- 現時点で確定した揺るがない未来。
- カレンダー・時刻表・プログラムなどの「**確定感**」のある場合に使われる。

● be going to / be -ing / 現在形

I'm going to leave for London on Monday. 【意図】

I'm leaving for London on Monday. 【予定】

I leave for London on Monday. 【確定感】

- 【意図】 はあくまでも心づもり。「月曜日にロンドンに出発するつもり」。具体性に欠ける。
- 【予定】 は「月曜にロンドンに出発する予定」。チケット手配や旅程などの具体性が見られる。
- 【確定感】 なので、出張日程で組み込まれているなど、【予定】よりも揺るがない感触。

■ (7) will + 進行形(will be -ing)を使った未来

- そのとき行われているできごとを想像し、見通しているニュアンス。「～しているところだろうよ」
- この表現は「丁寧さ」を印象付けるために使われる場合がある。
- なお、“Will you be -ing?”の形で「お願いごと」を頼むニュアンスが生まれる(p. 588)。

■ (8) will + 進行形(will be -ing)を使った未来

- be to は「進むべき道を指し示す」。命令・予定・運命などの用法がある。
- 相手に指し示せば**命令**、自分に指し示せば**予定**、できごとの転び方を指し示せば**運命**。